

## II 業務報告

# 1. 健康長寿推進室

当室が22年度に行った主な業務（表1）の内容は、以下のとおりであった。

表1 主な業務

1 業務の企画、総合調整および評価
(1) 企画運営会議の運営
(2) 研究課題評価委員会の運営
(3) 疫学倫理審査委員会の運営
2 衛生および環境に関する情報収集・提供
(1) 福井県の出生に関する統計の作成
(2) 保健衛生に関する情報提供
(3) 環境情報総合処理システムによる情報提供
(4) 花粉情報の提供
(5) センターホームページの運用
(6) 環境情報コーナーの運営
(7) 環境研究ポスターの作成・展示
(8) 情報システムの維持管理
(9) 情報の収集・提供に関する所内委員会の運営
3 衛生および環境に関する教育および学習の推進
(1) 衛生・環境教室等の開催
(2) 施設見学の受入れ
4 健康寿命の算定
5 衛生検査関係者および環境技術者の研修および指導
(1) 技術研修会の開催
(2) 研修生の受入れ
(3) 所内研究発表会の開催
6 調査研究

## 1. 1 業務の企画、総合調整および評価

- (1) 企画運営会議の運営
 

所長、部室長、総括研究員等14名で構成する企画運営会議を運営した。同会議では、当センターの試験研究の基本方針や計画等について審議した。
- (2) 研究課題評価委員会の運営
 

企画運営会議と同じ職員で構成する内部評価委員会、および学識経験者、医師、健康福祉センター所長など委員8名で構成する外部評価委員会を運営した。各委員会では、当センターの研究課題について評価した。

22年度の各委員会の運営状況は表2のとおりであった。なお、外部評価委員会には本庁関係課からオブザーバーとして参加協力を得た。また、外部評価委員会の評価結果については、I 運営概要の6. 研究課題評価に記載した。
- (3) 疫学倫理審査委員会の運営
 

医療・医学の専門家、弁護士、一般代表者など外部委員7名で構成する疫学倫理審査委員会を運営した。同委員会では、当センターの疫学研究課題について、倫理的・科学的観点からの審査を受けた。

22年度の委員会の運営状況は表3のとおりであった。審査結果についてはI 運営概要の7. 疫学倫理審査に記載した。

表2 研究課題評価委員会の運営状況

年月日	内 容
22.6.24 6.29	内部評価委員会の開催 (新規9題、継続13題、終了5題)
7.8	評価結果報告
8.23	外部評価委員会の開催 (新規7題、継続9題、終了3題)
11.5	評価結果報告
11.11	臨時内部評価委員会の開催（書面） (新規2題)
11.19	評価結果報告

表3 疫学倫理審査委員会の運営状況

年月日	内 容
23.3.8	疫学倫理審査委員会に審査を依頼 (新規1題)
3.24	審査結果報告

## 1. 2 衛生および環境に関する情報収集・提供

- (1) 福井県の出生に関する統計の作成
 

平成13年から21年までの人口動態統計の出生・婚姻のデータから福井県の「出生に関する統計」を関連各課、健康福祉センターと共同で報告書としてまとめ、県のホームページ(地域福祉課)上で公開した。
- (2) 保健衛生に関する情報提供
 

がんを含む生活習慣病に関する保健衛生統計および健康指標について、要望のあった関係機関に情報を提供した。
- (3) 環境情報総合処理システムによる情報提供
 

環境情報のホームページ「みどりネット」の登録情報の追加更新、行事案内等の掲載、データベース更新等を行った。

(「みどりネット」: <http://www.erc.pref.fukui.jp/>)

  - ① ホームページ登録情報の追加更新
    - ・平成21年度環境白書(本編・資料編)
    - ・改正土壌汚染対策法の施行について
    - ・平成22年度海水浴場の水質調査結果について
    - ・平成20年度PRTR集計結果
    - ・環境ふくい推進協議会情報紙「みんなのかんきょう」およびメールマガジン(平成22年度発行分)
    - ・平成21年度大気・水質の常時監視結果と公害苦情の概要について
    - ・平成21年度ダイオキシン類調査結果について
    - ・平成21年度公共用水域および地下水の水質の測定結果について
    - ・“ふくい”から見る地球温暖化パンフレット
    - ・平成22年度環境白書(本編・資料編)
  - ② 行事案内等の掲載
    - ・「環境バスツアー」の参加者募集
    - ・「川の生き物を調べよう」の参加者募集
    - ・「揮発性有機化合物対策セミナー」の開催
    - ・「環境マネジメントセミナー」の参加者募集

- ③ データベース更新
- ・環境関係事業届出データ (21年度末)
  - ・公共用水域水質測定データ (21年度分)
  - ・衛生環境研究センター年報－調査研究報告題名 (21年度分) 等

(4) 花粉情報の提供

① ホームページによる情報提供

花粉症や花粉に関する情報および花粉飛散シーズン中の福井市、敦賀市におけるスギ、ヒノキ花粉の毎日の飛散量測定結果についてホームページ上で情報を提供した。

なお、飛散量測定は、福井市分については当センターの職員で構成する花粉情報提供システム推進チームの測定班が行い、敦賀市分については二州健康福祉センター職員の協力を得て行った。

(「福井県花粉情報ホームページ」:

<http://web.erc.pref.fukui.jp/>)

② マスメディアによる情報提供

スギ花粉飛散開始前に、ラジオ番組で福井県の花粉飛散の現状や花粉症対策について情報を提供した。

(5) センターホームページの運用

当センターの業務内容や行事、活動について情報提供したほか、以下の刊行物の内容を掲載した。

- ・衛生環境研究センター年報(21年度)
- ・広報誌「衛環研だより」(平成22年度発行分)

(「センターホームページ」:

<http://www.erc.pref.fukui.jp/center/>)

(6) 環境情報コーナーの運営

当センター内に設置した「環境情報コーナー」において、環境図書、ビデオ、パネルの展示を行うとともに、県民への貸出を行った。

(7) 環境研究ポスターの作成・展示

環境月間(6月)の取組みの一環として、当センターの環境研究を紹介するポスター(A1判カラー6枚)を環境部、保健衛生部の協力を得て作成し、22年6月7日(月)から11日(金)まで県庁県民ホールで展示した。また、その後は当センター玄関ホールで展示した。

(8) 情報システムの維持管理

環境情報総合処理システムや公設試験研究機関科学技術情報ネットワークシステムが適切かつ効果的に活用されるよう、設備や登録情報の維持管理を行った。

(9) 情報の収集・提供に関する所内委員会の運営

所内の委員で構成される以下の両委員会を運営した。

① 図書・情報委員会

次の業務を行った。

- ・購読雑誌・行政資料の受付・データベース登録
- ・図書等情報資産の整理・管理

② 所報委員会

次の業務を行った。

- ・当センターのパンフレットの更新 (6月)
- ・衛生環境研究センター年報の編集・発行 (11月)
- ・広報誌「衛環研だより」の編集・発行 (9、3月)

### 1. 3 衛生および環境に関する教育および学習の推進

(1) 衛生・環境教室等の開催

一般県民や小中学生向けの衛生教室や環境教室等の開催の企画調整を行った。22年度の実施状況は表4のとおりであった。

表4 衛生・環境教室等実施状況

実施日	事業	対象者	参加者
22.5.7	環境教室 (西藤島小学校)	小学5年生	51名
5.22	「ふくい環境フェア2010」への出展	一般県民	—
6.7	環境科学体験デー	一般県民	112名
7.28	夏休み衛生・環境教室<環境教室>	小学生と保護者	27名
7.29	夏休み衛生・環境教室<衛生教室>	小学生と保護者	20名
10.21	環境教室 (春江中学校)	中学1年生	29名

各教室等の内容は以下のとおりであった。

・環境教室

大気や水の汚れ、地球温暖化について  
電気自動車見学・試乗

・環境科学体験デー

○ 体験コーナー

ア 大気環境測定車「みどり号」の見学

イ 「電気自動車」の乗車体験

ウ プラントンの観察

エ ものを燃やしたときのCO<sub>2</sub>濃度の測定

オ 植物のCO<sub>2</sub>吸収効果の測定

カ 身近な水の汚れの測定

キ 花粉の観察

ク いろいろな音の大きさの測定

○ 研究施設ツアー

○ 紹介コーナー

環境研究ポスター、緑のカーテン

・夏休み衛生・環境教室

衛生教室 食中毒菌について調べよう

環境教室 身近な環境について調べよう

・「ふくい環境フェア2010」への出展

環境研究パネル展示、地球温暖化展示、水の透視度測定(ペットボトルで透視度計の作成)、COD測定、大気環境測定車「みどり号」展示

(2) 施設見学の受入れ

当センターの施設見学の受入れ窓口を務めた。

22年度は、次の3件の団体見学を受け入れた。

- ① 22.6.25 福井県立大学生物資源学部実習生(2年生) 50名
- ② 22.11.8 社団法人日本電機工業会 10名
- ③ 23.2.28 福井県計量協会 27名

### 1. 4 健康寿命の算定

年齢階級別の死亡、年齢別要介護認定者数、年齢階級別の人口をもとに、県、各市町の平成21年分の健康寿命を算定した。

**1. 5 衛生検査関係者および環境技術者の研修および指導**

- (1) 技術研修会の開催  
 技術研修会の連絡調整を行い、また、当室の業務分野に関する研修の講師を務めた。  
 22年度の研修会開催状況は表5 のとおりであった。
- (2) 研修生の受入れ  
 下記の研修生受入れの連絡調整を行い、また、当室の業務分野に関する研修の講師を務めた。
- ① 福井大学医学部環境保健学実習生  
 22年度の受入れ状況は次のとおりであった。  
 ・学生数 保健衛生分野4名、環境保全分野5名  
 ・期間 7日間 (22.5.7～6.18の金曜日)  
 ・内容  
 保健衛生分野 (病原微生物、食品衛生、健康長寿など) に関する講義と実習  
 環境保全分野 (大気汚染、水質環境、常時監視など) に関する講義と実習
- ② インターンシップ研修生  
 学生が在学中に就業体験をするインターンシップ制度 (福井労働局・福井県経営者協会主催) に協力し、学生を受け入れた。  
 22年度の研修生受入れ状況は次のとおりであった。  
 ・大学等(人数)  
 福井大学(1名)、福井県立大学(1名)、富山大学(1名)、大阪大学(1名)、同志社大学(1名)、神戸女学院大学(1名)、福井工業高等専門学校(3名) 計9名  
 ・期間 8名は5日間 (22.9.6～9.10) 1名は10日間 (22.8.23～8.27、9.6～9.10)  
 ・内容  
 当センターにおける保健衛生・環境保全対策業務について
- (3) 所内研究発表会の開催  
 22年度は、同発表会を2回開催した (第1回：平成22年11月29日(月)、第2回：平成23年3月15日(火))。発表演題は、IV発表抄録の目次に記載した。

**1. 6 調査研究**

- 22年度は、次の3課題の調査研究を実施した (当室職員が主担当となって実施したもの)。
- ① 健康長寿延伸に向けた福井県民の心の健康づくりの研究—「笑い」を取り入れたストレス対処能力の向上をめざす—  
 (研究期間：21～22年度) (全所体制研究)
- ② 大気中微小粒子状物質(PM2.5)の実態解明に関する調査研究  
 (研究期間：22～24年度) (環境部と連携)
- ③ PM2.5と光化学オキシダントの実態解明と発生源寄与と評価に関する研究 (国立環境研究所C型共同研究)  
 (研究期間：22～24年度) (環境部と連携)

表5 保健衛生および環境保全に関する技術研修会の開催状況

実施日	研修内容など
22.5.17	環境担当職員基礎技術研修会 <第1部> ・みどりネット環境情報システムの活用法 ・平成22年環境保全対策事業 ・水質異常時における対応 ・感覚公害(騒音・振動・悪臭)測定の留意点 <第2部> ・みどりネット環境情報システムの活用法2 ・河川・地下水等採水時および産業廃棄物に係る検体採取時の留意点 ・アスベストのサンプリング法 (講師：環境部、健康長寿推進室ほか 参加者23名)
5.18	食品衛生基礎技術研修会 ・食中毒検査法の概要と最近の食中毒事例 ・市販食肉におけるサルモネラおよびカンピロバクター等の汚染実態調査について ・糞便検体からの迅速な病原細菌検出のための研究について ・ウイルス性食中毒について ・食品収去検査(理化学試験)について (講師：保健衛生部 参加者6名)
10.20 (嶺南) 10.22 (嶺北)	衛生統計基礎研修 ・講義「データの活用と地域診断」—脳血管疾患の死亡統計から地域をみる— ・実習「私の町の地域診断」 (講師：健康長寿推進室 参加者16名、11名)
10.29	感染症基礎技術研修会 ・感染症発生動向調査事業について ・県内に流行するウイルス性胃腸炎感染症 ・腸管出血性大腸菌発生状況 ・国際的に注目されている主な多剤耐性菌 (講師：保健衛生部 参加者13名)
23.3.11	衛生環境研究センター研修会 「笑い与健康研究会シンポジウム」 <第1部> ・基調講演：「内分泌学的ストレス反応の唾液情報論的評価」 (講師：大阪歯科大学講師 戸田雅裕 氏) <第2部> ・パネルディスカッション (コーディネーター：戸田雅裕 氏) 話題提供者： ①「ストレスと笑いの実態調査～科学的検証実験の概要」 健康長寿推進室 市川 研究員 ②「クロモグラニンA濃度測定解析結果について」 大阪歯科大学講師 戸田雅裕 氏 パネラー： 障害福祉課 池羽田 総括主任 健康増進課 下迫 主任 精神保健福祉センター 持田 企画主査 (企画：健康長寿推進室 参加者 22名)